

真勇カップ東日本ジュニア

大会ルール

審査基準

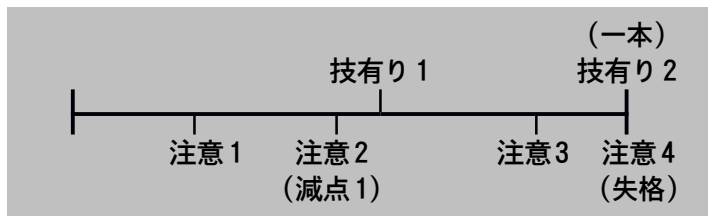
- ✓審査員及び審議員は同等の権限を持って審査にあたるが、最終決定は全て審判長の裁決による。

審判と勝敗

- ✓主審1名、副審4名(2名)の合わせて5名(3名)で行い、主審同時上げとする。
- ✓勝敗は半数を超える判定で決定する。
- ✓半数未満の場合は延長戦を行い、延長戦で勝敗を決めるマストシステムとする。
- ✓勝敗は一本勝ち、技有り(二回取った場合は一本となる)、判定勝ち、相手の失格ないし棄権により決定される。(ドクターストップの場合もあり得る)
- ✓試合中、主審を中心とし審判員同士で協議を行うことができる。

判定基準

- ✓1試合の全体を見て判定を行う。(1回の判定ごとに区切りとする)
 - ✓①技有りの有無、②減点の有無、③ダメージ、④技的的確性、⑤気迫の順とする。
- ※必ずしも手数足数がダメージに勝るものではない。



試合時間

【初級クラス】

本戦1:00→延長1:00(1回戦から決勝まで)延長マスト

【中級クラス】

本戦1:30→延長1:00(1回戦から決勝まで)延長マスト

【選抜クラス 年長・小学・中学】

本戦1:30→延長1:30(決勝戦のみ再延長1:30)延長マスト

【選抜クラス 高校男女】

本戦2:00→延長2:00(決勝戦のみ再延長2:00)延長マスト

一本勝ち

- ✓反則箇所を除き相手に対して突き、蹴りなどによりダメージを与え、3秒以上相手を倒した場合。
- ✓戦意喪失した場合。
- ✓技有りを二回取った場合。

技有り

- ✓反則箇所を除き相手に対して突き、蹴りなどによりダメージを与え、3秒以内に立ち上がった場合。
- ✓反則箇所を除き相手に対して突き、蹴りなどによりダメージを与え、動きが止まった場合。
- ✓上段への蹴りが的確にクリーンヒットした場合。
- ✓前蹴りや下段蹴りなどで相手を倒し、タイミングよく下段突きをで決めた場合。
- ✓技を仕掛けた選手が転倒した場合でも、その相手選手がタイミングよく下段突きをで決めた場合。

反則

- ✓金的への攻撃、頭突き、掴み、抱えこみおよび掌低または拳、肩による押しは全て反則となる。
- ✓拳、肘など肩も含め腕部位による首を含めた顔面への攻撃。(上段ヒザは反則となる)
- ✓頭をつけての攻撃。前進ありきの体圧。(踏ん張って上体をのけぞらせる行為も体圧とする)
- ✓床に手をつけての攻撃。
- ✓倒れた相手への攻撃。および背後からの攻撃。
- ✓掛け逃げ、故意による転倒と審判が見なした場合は注意を与える。
- ✓審判が消極的と判断した場合は注意を与える。
- ✓反則は注意2で減点1となり注意4で減点2となり失格となる。但し、悪質と判断された場合は即失格もあり得る。

失格

- ✓減点が2となった場合。
- ✓係員や審判員の指示に従わない場合や粗暴な言動、悪質な態度、悪質な反則と見なされた場合。
- ✓規定外の道衣や防具を使用した場合。
- ✓時間に遅れ進行の妨げとなる場合、および出場しない場合。

補則

- ✓上段ヒザ蹴りは全て反則とする。(故意でない場合でも反則となる)
- ✓このルール案内に無い事態が発生した場合は、必要に応じ役員が協議を行い審判長が最終決定をする。
- ✓協議結果や試合結果に対しての意義申し立ては一切認めない。

選抜クラスの決勝戦はヘッドガードを着用しません
今大会は全クラスで上段ヒザ蹴りは禁止となります

本大会は武道空手大会になります。子供たちが日頃の成果を試す場所です。良識ある応援マナーをお願いします。